

子どもも福祉に関心を 「トライやる」も契機に

介護事業所が小中学校に

車いすを使って子どもも高齢者や身体障害者への理解を深めてほしいと、介護事業所を運営する「介護の応援団あつぷる」（本部・姫路市）が、東播2市2町の小、中学校に車いすを寄贈している。トライやる・ウィークで介護施設を訪れた中学生が、熱心に取り組んだことも寄贈のきっかけになったと話す。

（井上 駿）

同社は昨年12月から、加古川市、播磨町、稲美町に計37台を寄贈。高砂市にも近く10台送る。既にある学校も含め、小学校は全校に車いすが配備されることになる。

福祉について学ぶ際、実際に乗ったり押したりしてもらおう。また、児童らがけがしたときにも使えるようにする。

寄贈の後押しになったのが、昨年6月のトライやる・ウィークで、同市尾上町旭3の介護ステーションにやって来た加古川市立浜の宮中学の男子生徒（13）だ。生徒は配膳やレクリエーション活動に取り組んだ。祖父の介護を手伝った経験から車いすの扱いも慣れていて、生徒は「福祉の仕事が不自由な高齢者の気持ちがいい分、児童が増えるほしい」と話していた。

車いす寄贈



車いすの寄贈を受けた播磨町教委の藤原聡美教育長（右）＝播磨町東本荘1